

## なごや看護学会設立趣意書

2018年4月1日

保健医療ニーズの増大、社会環境・価値の多様化、グローバル化の進展等によって、保健医療サービスに対する量的・質的な需要はますます増大・多様化しています。そしてそれらを支える保健医療システムには「量の拡大から質の改善へ」、「インプット中心から患者にとっての価値中心へ」、「ケア中心からケア中心へ」など、パラダイムシフトが必要とされています。このような背景のなかで私たち看護職は、保健医療サービスの一翼を担う者としての責任をもち、看護職者間はもちろん他の職種とも連携して人々の健康と生活を支える看護を実践していく必要があります。

看護実践の目標は、対象者の価値を中心にとらえてケアの質を高めることであり、そのためには実践を科学的視点から検証し、発展させる必要があります。それらは研究によって実現させることができるため、看護実践には研究が不可欠と言えます。しかし、日々の煩雑な看護業務のなかで研究を行うことは容易ではないようです。看護実践で気になること、改善したいと思うことがあっても、取り組むきっかけが見つからないかもしれません。研究疑問があっても、研究計画書の作成やデータ収集・分析の方法がわからないかもしれません。先行研究の検索システムや研究経費などの研究環境が整備されていないかもしれません。他の職種や他の施設・組織の方々と協力して取り組むべき課題もあるでしょう。また、人を対象とする研究では倫理的配慮が不可欠であり、研究者間で相互に補完することも必要だと考えます。

さらに、看護研究の価値は、その成果を対象である患者・家族、集団、コミュニティに還元することで示されます。そのためには、開発された新しい看護を臨床現場で試用し、安全性と有効性を確認したうえで、日常の看護として浸透させる必要があります。そしてその成果を蓄積していくというトランスレーショナルリサーチとしての取り組みも必要だと考えます。

そこで、これらの課題に組織的に取り組むために「なごや看護学会（仮称）」の設立を提案いたします。名古屋市を背景にもつ看護職者を中心とする学会組織です。そのねらいは次の通りです。

### 1. 発信と共有

- 1) 看護実践者のニーズと研究者のシーズをつなぎ、看護実践に資する研究を推進する。
- 2) 研究成果や実践情報を発信・共有する場とし、主体的に学び合う。

### 2. 連携と協働

- 1) 人々の健康レベルに応じたシームレスなケアを提供するための方策を提供する。
- 2) 大学・保健医療福祉機関・行政間の連携とヒューマンネットワークの活用によって、地域課題の解決に貢献する。

### 3. 社会貢献

- 1) 看護職者の実践能力・研究能力を高めることによって、看護の質向上に寄与する。
- 2) 地域の人々の健康と生活に着目し、健康維持・増進およびエイジング・イン・プレイス\*に資する政策を提言する。

これらを実現するために学術集会では、研究発表に加えて、実践・教育・研究に役立つ教育講演や参加者主体のワークショップなどを企画します。また、学術集会以外にも、講演会やセミナーを開催する予定です。そして、学会誌やホームページ、SNSなどを通じて情報の発信や会員間の交流を促進します。

以上、私たちは名古屋市で働き、学んでいる皆様とともに、人々の健康と生活を支える「看護」を探究したいと考えています。地域密着型の本学会の趣旨をご理解いただき、ご参加いただければ幸甚に存じます。

\*エイジング・イン・プレイス：住み慣れた土地で、豊かに老いを迎え、その人らしく最期まで暮らすこと